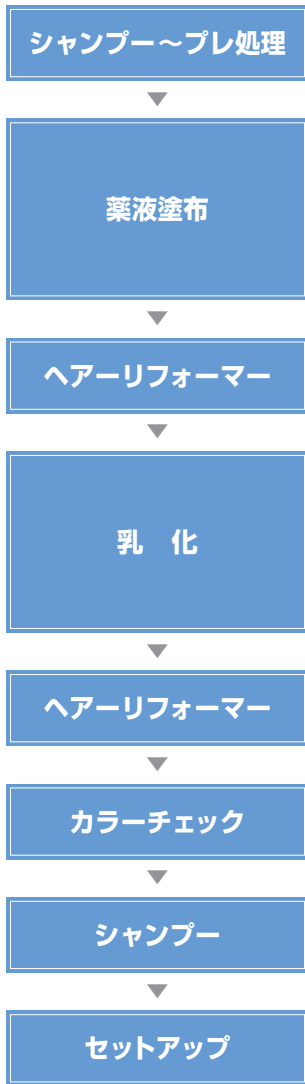


カラーリング編

アルカリ酸化染料を使用する7～9レベル(自然色)のおしゃれ染めの場合のプロセスです。



P3～4を参照

ビーワンバランスと1剤と2剤を1：1：1(基準)で混合したものを塗布してコーミング

例 30cc (ビーワンバランス) + 30g (1剤) + 30g (2剤) + $\sim 9\text{cc}$ (ビーワンオール) \div 90g

1剤と2剤の比率は薬剤の使用法に準じて下さい。

P1

タオルまたはラップなどで頭部を包みヘアーリフォーマーとヘアーキャップにて10～15分ほど常温で放置

P2

ビーワンバランスにカラーフィクサー ハイタッチを混合したものを、セット面で塗布しながら髪に揉み込むように5～10分ほど乳化

例 $60\sim 100\text{cc}$ (ビーワンバランス) + $3\sim 5\text{g}$ (ハイタッチ) + $6\sim 10\text{cc}$ (ビーワンオール) \div $63\sim 105\text{cc}$

薬液が白濁するまで丁寧に揉み込んで下さい。

再びヘアーリフォーマーとヘアーキャップにて5分以上常温で放置

薬液または放置時間の追加はテストの状態でご判断して下さい。

ビーワンバランスまたはビーワンサポートとシャンプーを5：5(基準)で混合したものでシャンプーリンスやトリートメントを使用する場合はビーワンバランスまたはビーワンサポートに混ぜて使用。

ビーワングレースを50プッシュ以上塗布してブロー

POINT 1 … 薬剤の調合はカップにビーワンバランスと1剤を入れ、よく混ぜ合わせてから2剤を加えて下さい。

※ビーワンバランスと1剤と2剤の比率は1：1：1でなくても結構です。

下記の調合表を参照に髪の状態や目的に合わせてビーワンバランスの使用量を調整して下さい。

※薬剤の調合時にもカラーフィクサー ハイタッチを3～5g混合すると、仕上がりがさらによくなります。

※白髪染めや色味を重視するカラーの場合は、タオルドライの後で完全ドライをするとよく染まります。

※赤・紫系のカラー剤を使用する場合は、プレ処理時のビーワンサポートの比率を少なくすると色味がよく出ます。

※ヘナを使用する場合は、調合する量に対して10～20%程度のビーワンバランスを混合して下さい。

※ヘアマニキュアを使用する場合も、10～20%程度のビーワンバランスを混合して下さい。

乳化の代わりにビーワンバランスを塗布。皮膚への液だれに注意しながらコーミングし、5分放置して下さい。

POINT 2 … タオルまたはラップなどで頭部を包んでからヘアーリフォーマーとヘアーキャップをした方が、染まりムラがなくヘアーリフォーマーのホースも汚れません。

【調合表】 1剤を30g使用する場合 ※1剤の使用量は毛量に応じて調整して下さい。

ビーワンバランス + 1剤 + 2剤 + ビーワンオール \div 総量

■ 損傷毛などで質感を優先する場合

60cc (2) + 30g (1) + 30g (1) + $\sim 12\text{cc}$ \div 120g

■ 基準

30cc (1) + 30g (1) + 30g (1) + $\sim 9\text{cc}$ \div 90g

■ 染まりにくい髪質の場合

15cc (0.5) + 30g (1) + 30g (1) + $\sim 7.5\text{cc}$ \div 75g



■ 乳 化 ■